

# 躍進

YAKUSHIN

No.  
38



株式会社 加藤組 社内報「躍進」

発行日／平成17年8月12日

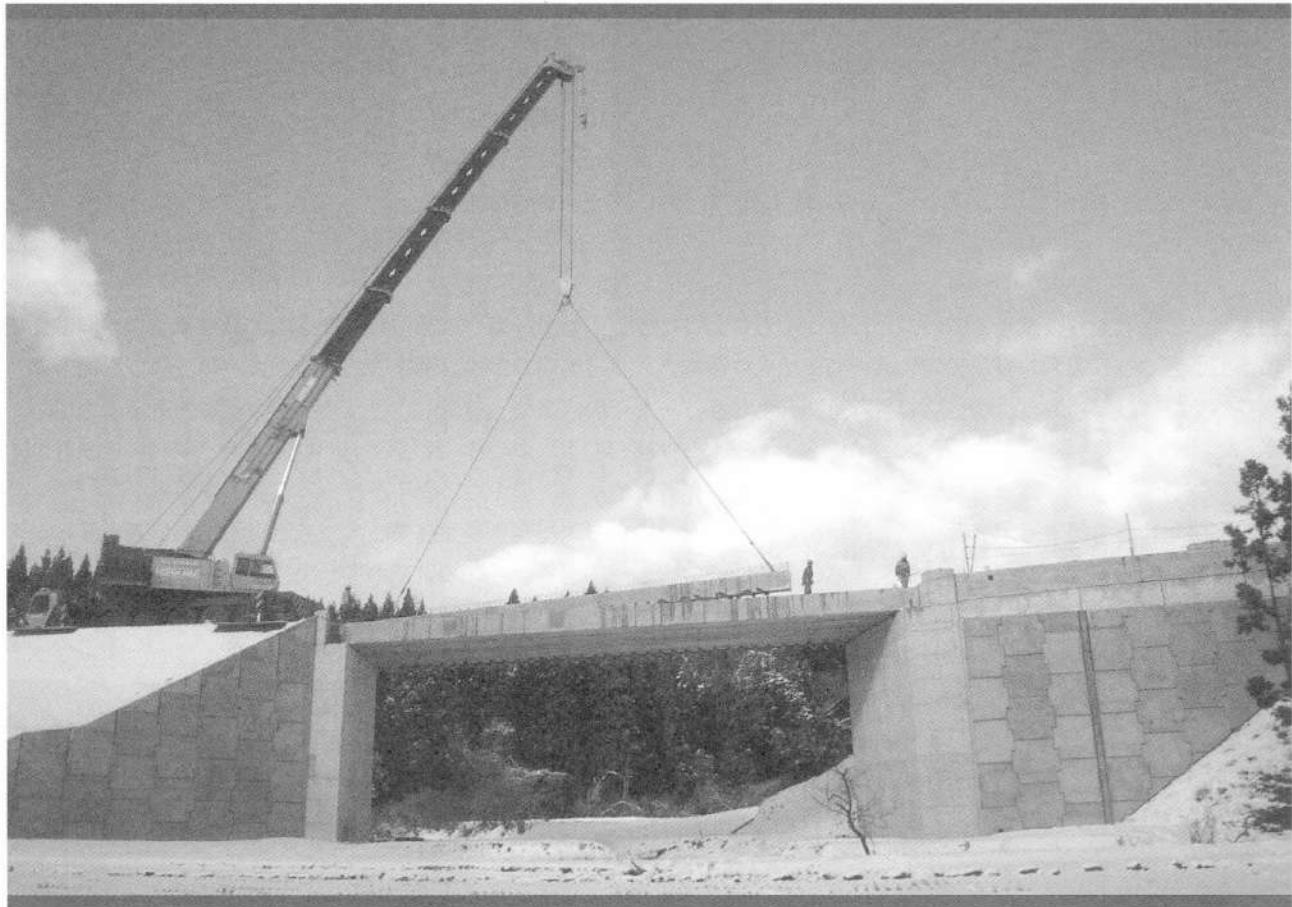
秋田県男鹿市脇本脇本字向山18-6

TEL.0185-25-3001代

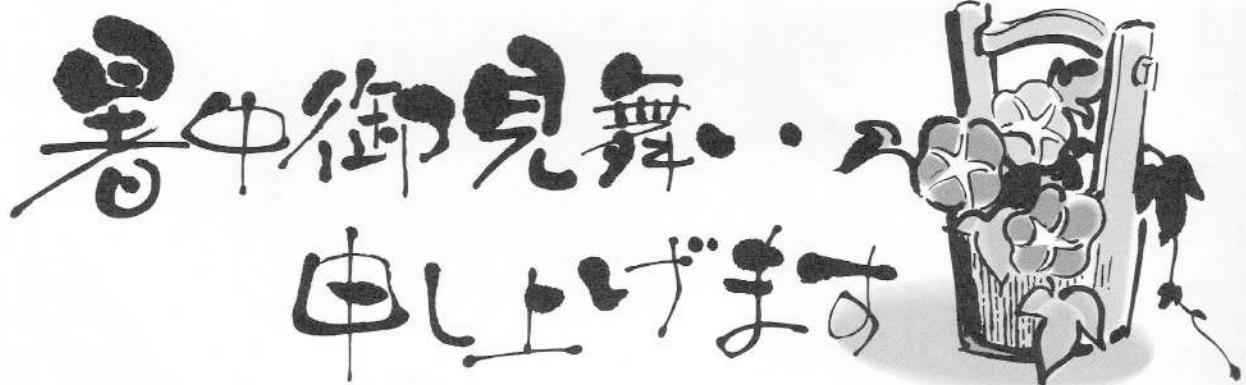
FAX.0185-25-2234

◎光飯商事 株式会社 ◎日本アスコン株式会社

◎社団法人 加藤道場



牧野安全寺2期地区 農道整備工事



# 加藤組安全大会報告

(株)加藤組 安全衛生委員会 畑 澤 強

七月十五日、加藤組安全大会が加藤道場において十三時三十分より開催されました。

毎年、全国安全週間（七月一日から七月七日）における取り組みの一環として加藤組では協力会社、加藤組社員が一同に会し、工事事故、交通事故撲滅を目指し、安全大会を実施しています。

平成十七年度全国安全週間のスローガンは「トップの決意とみんなの創意、リスクを減らして進める安全」として全国安全週間を契機として、それぞれの職場において、労働災害防止の重要性について認識をさらに深め安全活動の着実な実



行を目指すものです。当社においてもポスターも掲示、のぼり掲示、各現場の安全パトロール等実施しさらに協力会社、社員の出席を求め、安全大会を実施しました。

協力会社三十八社、四十名の出席、社員三十四名の出席、合計七十四名の出席を得て実施されました。

太田常務の開会の挨拶に続き加藤組安全スローガン、「安全は、企業の力、すべての社員の英知を集めその向上に努めよう」「ゆとりある運転、余裕ある運転、目指そう無事故の記録」と、また加藤組安全五箇条を出席者全員で唱和しました。

引き続き当社工事を実施した協力会社のなかから工事の安全施工に特に寄与された（株）平和企業、浮田建設の二社が表彰されました。

また、従業員においては、伊藤新次郎、伊勢喜久仁、原田隆氏の三氏が工事の安全管理において優秀であるとして表彰されました。

引き続き、加藤組社長挨拶では社長が急遽出張のため、沢田専務よりあいさつをいただきました。来賓挨拶は藤和会会長の米謙材木店社長米谷謙吉様よりあいさつをいただきました。引き続

き、協力会社の出席者の紹介、世紀東急工業の安全発表、加藤組安全衛生委員会報告がおこわされました。



休憩の後、安全講話をRSTトレーナーの鈴木栄悦様より「安全衛生対策の重要性について」と題し、最近の鉄道事故等の話題にふれながら、安全衛生の取り組みの重要性について安全講話がおこなわれました。

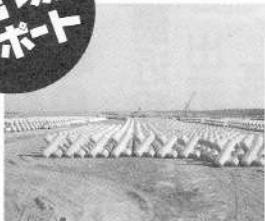
最後に佐藤常務の閉会の挨拶があり十

六時ころに安全大会は終了しました。安全大会を契機に今後より一層安全衛生活動に取り組み、無事故を目指し頑張りたいと思っていますのでよろしくご協力をねがいします。



秋田中央道路整備工事 現場安全パトロール

現場  
レポート



【工事名】海岸災害関連工事 KG16-10  
【工事場所】天王海岸 濁上市天王追分西地先

【工事場所】天王海岸 濁上市天王追分西地先

見易弋里人

鈴木耕一・現場員  
夏井直弥

夏半直尔

え、通常の予算形態であれば3年分の工事規模であり、それをわずか7ヶ月間で完成させよという神業を要求されています。また、安全面においても海上及び陸上作業とも5JV（加藤組JV・沢木組JV・清水組JV・三和興業JV・加藤建設JV）が近接しての工事であり、コン・捨石等の運搬ルートや製作ヤード等も5JVで十分協議する必要があり、「安全協議会」や「工事連絡協議会」を設置・運営します。

離岸堤設置位置は、現況汀線より海側100mと、かなり陸上に接近しており、かつ現況の海底地盤が着工前測量の結果、当工区のみ水深好1.50m程度と非常に浅く、起重機船（第36海光号）による海上作業が思うように進まなくな

現場周辺が砂地獄に抱団され  
たが如く、一軒、工事進捗過程  
に暗雲が漂いました。  
床堀仕上げ面が海岸地盤より  
低い位置に存在する状態であり、  
多少の時化に遭遇すると、たち  
まち床堀仕上げ面が埋没してし  
まい、再度、手戻り作業となり  
ます。(7月末の出来高は予定  
70%に対し、大幅ダウンの50%  
です)この問題を解決するため  
夏井課長をはじめとして、船団  
の佐々木艇長や協力会社の潜水  
士の方々と協力一致しながら妙  
案をしぼりつつ、工期内完成を  
目指し鋭意奮闘中です。  
本工事が無事故・無災害で完  
成できますよう、社員各位並び  
に多くのご家族の皆様方のご支  
援とご協力、よろしくお願ひ申  
し上げます。

本工事は、昨年6月～8月にかけていたびたび襲来した台風の被害を受けた天王海岸（L=4,595m）及び下新城海岸（L=950m）に離岸堤を設置する工事で、その内容はブロック製作、基礎工、ブロックの据付を施工するものであります。尚、この工事は平成16年度予算での発注工事であり、事業費を今年度中に消化しないと問題となり、よほどの悪天候に左右されなくなり、限り、10月中に完成しなくては

における海中床鋪がV=600m<sup>3</sup>程度だったのが、事前測量の結果、8倍超の数量増(▽=5,000m<sup>3</sup>)という大変有難くもない数値が出たのです。

水深約1.50m程度の海底地盤に帆布を敷設し、捨石を投入してマウンドを造成する工程をクリアする為、水深約2.50mまで海中掘削を施工しなければならないのです。(7号、8号、9

い難問題もふりかってきただのであります。(ちなみに起重機船の空台船の状態で喫水が約1・50mであ

〔工事名〕  
加茂

建設と  
その他工事

現場代理人  
三浦 豊



この工事は、航空自衛隊加茂分屯基地の送受信所及び鉄塔の新設工事です。

現場は、男鹿半島の真山の隣に有る毛無山の頂上にあります。頂上ということで見晴らしが良いかと期待しましたが一週間の半分以上雲がガスの中で気が狂いそうになるほど周りが見えません。又、気温の方も期待していたほど涼しくは無く普通に三〇度は超えます。

当見易では多くの徘徊があります。

An aerial photograph of a construction site. In the center, there is a large, rectangular area that appears to be a foundation or a base for a building, surrounded by a complex network of white scaffolding. To the left, a dirt road leads towards the site. On the right side, there is a small, round concrete structure, possibly a water tank or a silo. The overall scene suggests a major engineering project in progress.

A black and white photograph showing the construction of a massive satellite dish antenna. The central tower is a complex lattice structure, and a large rectangular panel is being hoisted into place by a crane. In the background, other completed dish antennas are visible against a cloudy sky.

われ、恐る恐る宝探しをしました。  
今は躯体工事も終わり鉄塔もほぼ  
完成しており残りは内装と外構・舗  
装工事です。天候にも恵まれず工程  
どおり進まないのが悩みですが、無  
事工事を完成させたいと思っており  
ます。

尚、基地内の写真掲載は機密扱い  
で禁止されていますので、完成した  
ばかりの二十五m鉄塔からの眺めを  
ご覧ください。

掲載の写真の取り扱いには十分注意をお願いします

現場  
レポート



# 未収録の会員登録

現場の出来事

## 最近起こった出来事により気づかされた事

佐藤洋幸

(土木部土木課)

「ピーツ、ピーツ、ピーツ、ドン  
ツ、バキッ、ブシューッ」  
「おめがだ、こんだに人いでごみ  
でらんだつてー、やーやーやーや  
ー、シユートんなだめになつてしま  
つたねがー」運転手の声が現場  
内に響き渡る。生コンを打設しよ  
うと架台を後進した生コン車のシ  
ユートが重機に衝突してしまつた  
のだ。現場には誘導員を配置して  
いたので何の不備もないものと思  
つていたが事故が起きてしまつた。  
運転手の怒りの勢いに圧倒されて、  
三秒で現場側がすべて悪いといふ  
雰囲気になってしまった。

ここで、現場の状況を少し説明し  
たいと思う。当時は小雨が降り現場  
内は掘削した粘性土によりぬかる  
み、仮設の敷設板の上は生コン車の  
タイヤが少々スリップするような足  
場の条件としては悪いものであつ  
た。実際現場においては後進してき  
た生コン車のシユートを誘導員が設  
置し、後進の誘導を行うといった手  
順でおこなつていた。この際、運転

手は架台に登りきるまでは車両から  
は降りてはこない状態であった。今  
思えば運転手を一度降車させ、後方  
確認とシユートの位置の確認くらい  
は行わせるべきであつたと思う。誘  
導員は他の現場で今まで行つてきた  
作業手順でこの日も誘導を行つてい  
た。誘導員は途中で一旦シユートの  
位置を調節してから最後まで後進さ  
せようと考えていたのだが、運転手  
は一気に登つてもよいものと思い勢  
いよく後進してしまい、誘導員がス  
トップをかける間もなく衝突してし  
まつたのだ。損害の程度としては生  
コン車のシユート全損といったもの  
であった。

今まで私はいくつかの現場を管  
理してきたが、こんな単純な事で  
事故を起こすとは思つてもおらず、  
何がいけなかつたのかと考えれば、  
作業手順を明確せず、周知してい  
なかつたのが一番の原因であろう。  
搬入してきた生コンを降ろすいつ  
も当たり前に行つている作業だから  
といつて手順を明確にせず作業を行  
つっていたのがこの事故を起こし  
た原因と考えます。一定間隔で生  
コンを搬入していく何人もの生コ  
ン車の運転手一人一人に対しても事  
細かに作業手順を説明するといつ  
た事は今まで行つた事はありません  
でした。他の現場代理人の皆さん  
は事細かに行つていますか?

この事故により、単純な事やいつ  
もやり慣れている事にこそ、見つ  
けにくく、見落としやすい危険が  
潜んでいる事を理解した事などか  
らも、再度作業手順を明確にし、  
現場に携わる全ての人に周知しな  
くてはならないと痛感しました。

実際、朝に行われる安全ミーティ  
ング時には生コン車の運転手は居  
ません。作業と作業の間に必要  
が迫られて、いようと行わなければ  
ばならないと思いました。また、  
現場に入場する協力会社が変わ  
ればそれぞれ作業手順が異なります。  
現場には数社の協力会社が入場し  
作業を行つています。協力会社に  
は協力会社の作業手順があり、業  
者同士のそれら手順はそれぞれ異  
なる事などからもそれらをどう統  
一化させ事故がおきないよう工  
事を進めていくのかが、技術者に  
求められる重要な課題であるのだ  
と気づくと共に、最も困難を極め  
る課題であると思いました。なぜ  
困難なのか、それは皆自分達の会  
社の手順が一番作業効率がよく、  
安全で一番だと思っているからで  
ある。

まだまだ、経験が足りなく知識  
が少ないからかもしれないが、人  
が先に立つて現場を進める人間と  
して、人と人のコミュニケーション  
が今のところ一番難しいと思う  
今日このごろである。今後も最善  
の注意をはらい、安全第一にて最  
大限の努力をしたいと思う。

# 新入社員の横顔



● 氏名 武藤秀雄 (土木部設備課)  
● 生年月日 昭和21年1月26日  
● 趣味 音楽鑑賞 (モダンジャズ)・バードウォッチング  
● 口コミメント 一番の財産は健康、自分・家族・会社の為元気でがんばりますのでよろしくお願いします。



氏名 石川洋子 (総務部)

生年月日 昭和60年9月1日

趣味

昭和60年9月1日

コメント

仕事でもプライベートでも充実した  
ものを目指したいと思つています。

どうぞよろしくお願ひします。

# ♪沖縄旅行の思い出♪

加藤智美（総務部）



5月19日、まだ肌寒い秋田を出発し沖縄へと向かいました。前日まで、沖縄の天気予報をチェックし、まるで修学旅行へ行く中学生のようにワクワクしていました。沖縄の旅行雑誌を買いつぶれもこれも食べたいとチェックしながら過ごしていたせいもあり、飛行機に乗る時間の長さが楽しみを人一倍大きくさせていました。

とうとう待ちに待った空港へ到着！観光客が多い県ということが象徴されるような空港の大きさにビックリしました。空港で、集合していると…「あれ！？竹野内 豊？」ななんと、芸能人発見です。「あああ！こんな所で見れるなんてきっといい旅行になるなあ…」と一人で思っていました。

日程1日目、私達一行は首里城へと向かいました。沖縄の町並みを見るたび、秋田とは違う所が多く南国だなあとしみじみ感じました。首里城は、中国の影響を受けているというだけあり、中にはとても鮮やかな装飾品がたくさんあり、その色鮮やかさや美しさに感動しました。そして、1日目のホテルへ到着！オーシャンビューということを聞いていたので、ああ、きっと青い海白い砂浜なんだろうな…と期待していましたが、時期が少し早すぎたようです…。

沖縄ではたくさんの施設や、場所を巡りましたが中でも心に残っているのは「美ら海水族館」です。建物の大きさや、広さを見て中へ入るのがとても楽しみになりました。大水槽やタッチプールの中の生物は図鑑でしか見ることのないような生き物がほとんどでした。また、イルカのショーもあり、時間が足りないと感じるほど楽しむことができました。

そして、夜は国際通りへ…もう下調べは十分！と気合を入れて望みましたが、店の数も半端ではない位多く、店の前を通り入りたいと思う店に入ってお土産を買いました。そして私達は帰りに、地獄の体験をする事となつたのです…。そろそろタクシーにのってホテルへ帰ろうと思い一台のタクシーをつかまえ乗ると…ものすごく細い道を物凄いスピードで走り抜けて行くのです。

あっぷつかる！人が、バイクがとハラハラドキドキでした。実際乗っている時間は少しだったのですが、とても長い長い時間でした…。

この旅行を振り返り、2泊3日でしたが沖縄の楽しさや美しさに触れ心温まる時間を過ごす事ができました。同じ日本でもこんなにも文化や習慣、そして食べ物が違うものかと3日間驚きでした。帰りの飛行機では疲れて熟睡でした。

今度また機会があれば、夏に行って青い海と白い砂浜を見てきたいなあと思いました。



## 伊藤家のドタバタ家族旅行

土木部部長 伊藤 满

毎年恒例のドライブを兼ねた東北地方を巡る季節が来ました。お盆休みの行楽地は、混雑するので毎年、子供たちが夏休みに入つすぐ行動するようにしています。

今回は、NHK大河ドラマに影響され義経ゆかり地の平泉を見学しました。弁慶堂や中尊寺金色堂など国宝級の建造物等々すばらしい品々が新しく建立された資料館で見ることが出来ました。

その後国道4号線を南下してこども遊園地（ちゃっちゃワールドいしこし）へよってから、車で40分の距離にある宮城県遠田郡南郷町にある丸太で出来たコテージに宿泊しました。ここは、2年前にも一度宿泊した所です。前回は、宿泊した日の深夜に震度6強の地震があり、早朝は、震度6弱と2回も貴重な経験をしたところです。自分としては宮城沖地震も経験していますが、ここでの宿泊施設の名前がドタバタ村と言うこともあり落ち着いて泊まれないのかと思つてしましました。このコテージは、4棟あり他に管理センターと研

修棟があります。コテージ内は広く10人程度まで泊れます。食事は、自炊できる流し台・冷蔵庫・コンロ・電子レンジ等完備されていますし、食事付で申し込むと2食付で1人6,500円です。素泊まりだと3,900円です。興味のある方はインターネットで、でんえんたばた村（土田畠村）で検索してください。

翌日は、車で15分ぐらいの距離にある松島でオルゴール博物館・水族館・松島湾遊覧船等散策し、当日は、天気にも恵まれ有意義な家族旅行をすることが出来ました。みなさんも一度このコースでドライブしてみてください。より良い行楽地や穴場を知ってる方がおりましたら教えてください。来年は、どこへ行こうか、またまた、悩みながら計画しようと思います。



